

## 新潟県で初めて採集されたミナミテナガエビの記録

清水哉多

新潟市水族館マリンピア 日本海, 新潟県新潟市中央区西船見町 5932-445(〒951-8555)

### The First Record of *Macrobrachium formosense* Collected in Niigata Prefecture

Kanata SHIMIZU

Niigata City Aquarium Marinepia Nihonkai, 5932-445 Nishifunamicho, Chuo-ku, Niigata City, Niigata Prefecture, 951-8555, Japan

#### Abstract

*Macrobrachium formosense* Bate, 1868 is a species of palaemonid shrimp distributed from the Nansei Islands to central Honshu, Japan. Although no records of this species have previously been reported from Niigata Prefecture, one individual was collected from a river in Jōetsu City, Niigata Prefecture, during a biological survey conducted on 17 October 2025. The specimen was anesthetized on ice, preserved in 70% ethanol, and deposited as a wet specimen in the Niigata City Aquarium. As this individual represents both the easternmost record of the species along the Sea of Japan and the first record from Niigata Prefecture, I report it based on the preserved specimen.

#### はじめに

ミナミテナガエビ *Macrobrachium formosense* Bate, 1868 は、南西諸島から本州中部以南に分布するテナガエビ科テナガエビ属の一種である(豊田ら, 2014)。新潟県における本種の記録はこれまで報告されていないが(林, 1976; 新潟県, 2001; 丸山, 2016; 丸山, 2017)、2025年10月17日に新潟県上越市内の河川で生物採集を行った際、本種を1個体採集した。採集した個体は氷冷麻酔後、70%エタノールで固定し、液浸標本として新潟市水族館に収蔵した。今回採集した個体は日本海側における東限記録および新潟県での初記録となるため、標本に基づきここに報告する。

## 材料と方法

2025 年 10 月 17 日、新潟県上越市(図 1) を流れる柿崎川に注ぐ農業用水路において、D 型フレームネット(網目 1mm) を用いて生物採集を行った際、本種を 1 個体採集した。採集した個体は氷冷麻醉後(図 2, 図 3)、70%エタノールに固定し、液浸標本として保存した(図 4)。標本は新潟市水族館に収蔵している。計測は頭胸甲長、額角歯式を計測した。計測にはデジタルノギス(Mitutoyo 製 CD- S20M: 500- 405) を用い、0.1mm 単位で計測した。頭胸甲長は眼窩後縁から頭胸甲後端までとした。また、額角歯式は「頭胸甲上+額角上縁/額角下縁」と表した。

## 結果

記載

ミナミテナガエビ *Macrobrachium formosense*

頭胸甲長 10.6mm, 額角歯式 2+9/3, タモ網, 清水哉多, 水温 19.2°C

額角の長さは第 1 触角柄部第 3 節の先端を超え、触角鱗の先端まではいかない、頭胸甲側面には明

瞭な 3 本の斜横帯が見られるなどの特徴により本種と同定した(吉郷, 2002, 豊田, 2014)。

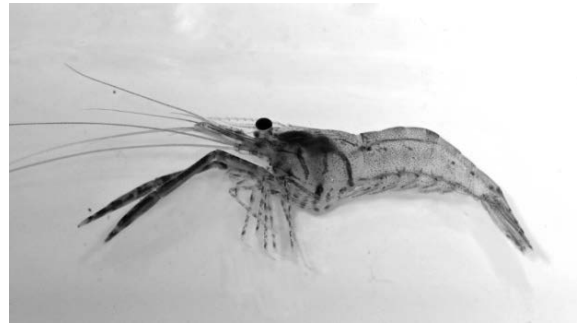


図 2 ミナミテナガエビ(側面)

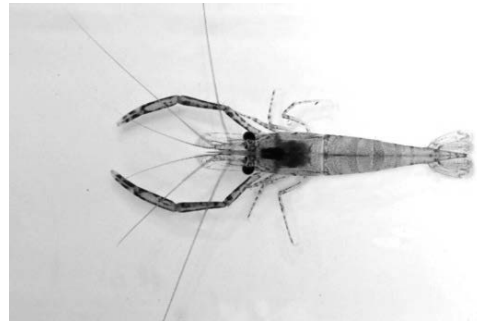


図 3 ミナミテナガエビ(背面)



図 1 採集場所: 新潟県上越市柿崎区柿崎



図4 ミナミテナガエビ(エタノール固定後)

### 考察

ミナミテナガエビを含む両側回遊性のエビ類は、春から夏にかけて産卵を行い、孵化した幼生は汽水域および海域で成長する。一部の個体は海流による分散を経て着底し、河川を遡上する生活史をもつ(浜野, 2005)。そのため、本個体も日本海を流れる対馬海流によってより南方から偶発的に流れてきた可能性がある。さらに、同様の生活様式をもつヒラテナガエビが清水ら(2026)によって採集されていることや近年の海水温上昇(気象庁, 2025)を踏まえると、分布域が北上傾向にあることも否定できない。しかし、新潟県における両側回遊性エビ類の調査・報告例は少ないため、海水温上昇以前から局所的に生息していた可能性も考えられる。今後も継続的な調査を行い、新潟県における両側回遊性エビ類の生息情報を蓄積することで、海水温上昇を含む環境変化が本種の分布に与える影響を検討していく必要がある。

### 謝辞

本調査は公益財団法人こじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金の助成を一部受けて実施した。本種の同定にあたり株式会社テクノ中部の小早川莉穂氏にはご協力いただいた。ここに深く感謝申し上げる。

### 引用文献

- 浜野龍夫・井手口佳子・中田和義, 2005. 山口県西田川における両側回遊性エビ類の幼生の流下と稚エビの加入. *水産増殖*, **53**(4): 439–446.
- 林健一, 1976. 佐渡臨海実験所近海のエビ類相. *新潟県生物教育研究会誌*, **11**; 18.
- 気象庁, 2025. 海面水温の長期変化傾向(日本近海).  
<[https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/a\\_1/japan\\_warm/japan\\_warm.html](https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html)> 2025年12月12日アクセス.
- 丸山智朗, 2016. 本州日本海側における両側回遊性コエビ類の分布について. *Cancer*, **25**: 55–60.
- 丸山智朗, 2017. 越前・能登・佐渡の河川で採集されたコエビ類. *Cancer*, **26**: 35–42.
- 新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. 98p., 新潟県環境生活部 環境企画課, 新潟.
- 清水哉多・石澤佑紀・石川訓子, 2026. のと海洋ふれあいセンター研究報告. **31**:47–49.
- 豊田幸詞・関 慎太郎, 2014. 日本の淡水性エビ・カニ, 70–71. 株式会社 誠文堂新光社, 東京.
- 吉郷英範, 2002. 日本のテナガエビ属(甲殻類: 十脚類: テナガエビ科). *比婆科学*, **206**: 1–6.

